

図書館だより

世紀末の「クレオールの世界」を旅して

小泉八雲記念館 学芸員 小泉 凡
松江市総合文化センター

昨年来、2度にわたりニューオリンズとカリブ海に浮かぶアンチル諸島のマルティニークに出かける機会があった。いずれも「クレオールの都」と呼ぶにふさわしい場所である。「クレオール」とは、植民地生まれの白人を意味する言葉だが、いま一般には、ラテン系とアフリカ系文化の接触によって生じた、混血・言語・音楽・料理などもろもろの文化融合の現象を指す時に用いる。

ポール・ゴーギャンやラフカディオ・ハーンは、この文化に魅せられた世紀末の旅人である。ゴーギャンはパナマとマルティニークに約1年、ハーンはニューオリンズとマルティニークに計11年も住まいした。

その間、ゴーギャンは妻メットに宛て、「マルティニークはまるで天国だ」としたため、ハーンは東京時代にマルティニークに戻る夢をよく家族に語っていた。島では、

100年たったいまでも、このふたりを島の紹介者として敬意をもって見守っている。

私自身も、クレオールの世界に入ると、血が騒ぐような躍動感にいつも襲われる。この魅力の最大の要因は、文化の寛容さにあるようだ。島の女性が語っていた「混血は心も寛大にするわ」という言や、4月に表敬訪問したカリブ諸国の精神的指導者エメ・セゼール氏の、のびやかで力強い語勢のうちに、ふたりの世紀末の旅人を虜にしたものと同種の魅力を十分に感得することができた。

混血が限りなく進んだマルティニークでは、人種差別などいまや砂粒ひとつ意味さえもない。ハーンが愛したサンピエールの丘で、世紀末の貿易風にあたりながら空気の感触を楽しんでいると、この小宇宙に、21世紀に向けての人間界の大切なテーマが秘められているような気がしてきた。

県立図書館のあゆみ

—内中原へ新築移転から25周年—

県立図書館が、昭和43年10月に県庁の西側、藩政時代「お花畠」と呼ばれた現在地に新築移転してから25年余りが経過しました。

当時、1970年代は日本の図書館界にとって新たな幕開けの時代でした。各地で大量貸出を進める図書館が開館し、従来の静かなイメージから「図書館をもっと身近に暮らしの中に」を合い言葉に、買い物かごで出入りできる明るく親しみやすいイメージに変わり始めていました。一方、まだ利用者から「貸出料金はいくらですか」と問われたり、「司書は何の職業か」がクイズになった時代でもありました。それから25年を経て、また新たな変革の時代を迎える一つの節目としてこれまでの県立図書館のあゆみを振返ってみたいと思います。

移転した図書館は松江城のお堀に面し、四季折々の眺めが美しい、読書に最適の環境でした。建物は菊竹清訓氏により設計され、多くの建築家学生達の見学がありました。昭和58年には蔵書の増大に伴い、2階に新館読書室、1階、地下1・2階に閉架書庫が増設されました。また昭和61年には浜田教育センターに西部読書普及センターが開設され、石見地域の拠点として活動を

続けています。

蔵書冊数は昭和43年度は約10万4千冊、平成5年度は約44万8千冊になりました。個人貸出冊数は約5万7千冊から約14万冊に増え、団体貸出等は約3万8千冊から約12万2千冊に増えています。昭和54年には第一次島根県読書普及振興計画が策定され、親子読書活動は年々盛んになり、県下に浸透していきました。

もう一つの大きな変革は、昭和63年7月の図書館業務のコンピュータ化です。貸出し・返却、目録カード作成・検索、図書点検等種々の業務が様変りしました。山のような返却本へのブックカード差し入れ作業や、目録カードの手書き・配列作業はなくなり、新たに端末画面入力が始まりました。

今後は、質・量の伴った資料収集と検索機能の充実、県内外とのネットワーク・オンライン化が大きな課題です。県民に親しまれる図書館であると同時に、居ながらにして様々な情報を各地へ発進する県立図書館としての機能も充実していく時代になります。また、県の資料センターとして保存と利用の両方を考えた運営に努めたいと思います。



平成5年度ベストリーダ

～よく読まれた本～

平成5年4月から平成6年3月までの、館内用図書の月平均貸出冊数は、一般図書、雑誌を含め約11,700冊でした。貸出された本の中から利用回数の多かったものを、中央カウンターとこども室にわけて紹介します。

～中央カウンター～

フィクションでは、中年の男女のほろ苦い恋愛を描いた『マディソン郡の橋』が最もよく読まれ、利用回数25回でした。作者別で見ると、池波正太郎、赤川次郎の人気が相変わらず強く、どの作品も広く親しまれています。最近では、宮部みゆき、高村薫といった女性作家の作品も多く利用され

ています。

ノンフィクションでは、エッセイ『もものかんづめ』が一番よく読まれ、23回でした。また、ユン・チアン著『ワイルド・スワン』は出版されてから一年近くたちますが人気が高く、常に数件の予約が入っている状況です。

～こども室～

こども室で最も利用が多かったのは『タイムトラベラーウォーリーをおえ！』で、利用回数は39回でした。主人公のウォーリーを、細かく描かれた絵の中から見つけ出す絵本で、子供から大人まで夢中になれる一冊です。

県西部へのサービスを行なっています

= 西部読書普及センター紹介 =

西部読書普及センターは、浜田市の県立浜田教育センター内にあり、県西部の読書普及活動や、図書館活動を支援するためにつぎの業務を行なっています。

◎読書会用図書の貸出

◎家庭文庫、学校、保育園、幼稚園、職場

などへの団体貸出

(100冊まで、3ヵ月間)

◎市町村読書施設への大量一括貸出

◎図書館運営の相談・情報の提供

◎講演会、研修会の開催

☆読書会や文庫活動をしてみたいという方、ご一報ください。 ☆読書施設からの相談もお待ちしています。

〒697 浜田市長沢町1550-1

☎0855-23-6785

開館時間 9:00~17:00

休館日 毎土、日曜日、祝日、年末年始

* = <たなばたかい>のお知らせ = *

* 七夕飾り作りに、おはなし、エプロン
シアター、歌を交えた子どもの集いを催
します。

* とき：8月3日(水)午後2時～3時30分

* ところ：県立図書館集会室

* (対象：幼児、小学生)

行事予定

8月

1 月 休館日	2 火	3 水 親子で絵本を読む会 15:00~16:00 子供のつどいセタ会 14:00~15:30	4 木	5 金	6 土 古文書を読む会 (近世) (14:00~16:00)
7 日 休館日	8 成人読書会 13:00~15:00	9 親子で絵本を読む会 15:00~16:00	10 「万葉集」を読む会 14:00~16:00	11 「出雲国風土記」を読む会 13:00~15:00	12 子供読書会 14:00~16:00
14 休館日	15 休館日	16	17 親子で絵本を読む会 15:00~16:00	18	19
21	22 休館日	23	24 親子で絵本を読む会 15:00~16:00	25	26
28	29 休館日	30	31 休館日		

○館内展示……全国地方出版社刊行図書展



9月

4 日 休館日	5 月 休館日	6 火	7 水 親子で絵本を読む会 15:00~16:00	8 「万葉集」を読む会 14:00~16:00	9 「出雲国風土記」を読む会 13:00~15:00	10 子供読書会 14:00~16:00
11 休館日	12 休館日	13 成人読書会 13:00~15:00	14 親子で絵本を読む会 15:00~16:00	15 敬老の日 休館日	16	17 古文書を読む会 (中世) (13:30~15:30)
18 休館日	19 休館日	20	21 親子で絵本を読む会 15:00~16:00	22	23 秋分の日 休館日	24
25 休館日	26 休館日	27	28 親子で絵本を読む会 15:00~16:00	29	30 休館日	

○館内展示……「旅」資料展

※各種講座は講師の方の都合により変更する場合もあります。

●休館日

毎週月曜日・国民の祝日
毎月末日(月末が日曜日にあたると
きはその前日)
年末年始 12月28日~1月4日
図書整理休館(春・秋、それぞれ10日間)

利 用 案 内

●開館時間 9時~18時

子ども室は火曜日~土曜日は13時~18時
ただし、小・中学校の週5日制導入に伴い、
第二土曜日は午前9時から開きます。

●貸出し

冊数…5冊以内
期間…15日

編集発行 島根県立図書館 松江市内中原町52 TEL 0852-22-5725

発行日 平成6年7月31日

FAX 0852-22-5728